

実務経験のある教員による授業科目の一覧表（デザイン学部）

2020年度

授業科目名	科目担当者	開講年次	開講時期	単位数
表現基礎（描画）	藤木 淳	1年次	前期	2
材料加工理論/実習Ⅱ	安齋 利典	1年次	後期	2
建築計画論	山田 信博	2年次	前期	2
プロダクトデザインⅠ	安齋 利典	2年次	前期	2
協同デザインⅡ	若林 尚樹	2年次	後期	2
ビジュアルライゼーションⅡ	藤木 淳	3年次	後期	2
観光デザイン論	大島 卓	4年次	前期	2
単位数合計				14

※オムニバス科目、複数教員担当科目を含む場合があります。

実務経験のある教員による授業科目の一覧表（看護学部）

2020年度

授業科目名	科目責任者	開講年次	開講時期	単位数
看護初期実習	藤井 瑞恵	1年次	前期	1
基礎看護学臨地実習Ⅰ	武富 貴久子	1年次	後期	1
基礎看護学臨地実習Ⅱ	大野 夏代	2年次	前期	2
小児看護学臨地実習	牧田 靖子	3年次	後期	2
母性看護学臨地実習	山本 真由美	3年次	後期	2
成人看護学臨地実習Ⅰ	工藤 京子	2年次	後期	3
成人看護学臨地実習Ⅱ	菅原 美樹	3年次	前期	2
老年看護学臨地実習Ⅰ	原井 美佳	3年次	前期	1
老年看護学臨地実習Ⅱ	村松 真澄	3年次	後期	2
精神看護学臨地実習	伊東 健太郎	3年次	前期	2
在宅看護学臨地実習	高橋 奈美	3年次	前期	2
公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ	田仲 里江	4年次	前期	2
公衆衛生看護学臨地実習Ⅱ	本田 光	4年次	前期	3
ヘルスケアマネジメント実習	矢野 祐美子	4年次	後期	3
単位数合計				28

※全て複数教員担当科目

シラバス参照

講義名	表現基礎（描画）Aクラス		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	60.00
必修・選択区分	必修		
学部等	デザイン学部		
開講年次	1年次		
科目分類	専門教育科目 基本		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 藤木 淳	デザイン
教育職員	横溝 賢	デザイン

科目のねらい	デザインの基礎となる物事をよく見て、描いて見て、それらしく見えるまで、あるいは自らが表現したいことが他者に伝わるまで描いていく力を向上させ、自己のアイデアを展開し、まとめる力を、ドローイング表現技術の習得を通して学ぶ。 基本的な描画の道具としての画材の特性を理解し、それをもとに自分の手で描くことでアイデアを展開し、まとめ、伝えるためのツールとしてドローイング技術の活用を体験的に学ぶ。
到達目標	①観察する力とそれを表現する力を身につける。 ②段階的プロセスによりイメージした形を的確に表現することができる。 ③デザインにおけるドローイングの役割を理解し、ビジュアルなコミュニケーションに活用できる。
授業計画・内容（自由記述）	デッサンから伝達手段としての描画に関する課題を実習する。
事前・事後学習	予習について： 授業の終わりに次回の授業テーマについて触れ、授業までに事前に準備しておく画材や、調べておく事柄を予習のポイントとして指示します。 復習について： 授業にもとづいて関連する作品等の調査や演習課題を課します。また、発表準備、素材制作、課題作成など、授業時間外の作業が必要となります。
教科書	授業の中で資料を適宜配布する。
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
成績評価基準と方法	授業態度・提出課題の結果を総合して評価する。 ○授業態度30%：授業時間を効果的に活用して制作を行う ⇒評価する到達目標①②③ ○発表 20%：作品の制作意図などを説明できる ⇒評価する到達目標①②③ ○作品 50%：出題条件にそった課題作品をすべて提出していること ⇒評価する到達目標①②③ ○出席 欠格条件：2/3以上の出席が必要
関連科目	表現基礎（構成）、表現基礎（製図）
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	・デザインを学ぶ上で基礎となる描く力を、さまざまな視点からのエクササイズを通して身につける授業です。 ・授業開始時に、一括購入する画材費（スケッチブックや鉛筆等など）1,500円が必要となります。ただし、状況に応じて画材とその準備方法を変更する可能性があります。一括購入する画材を用いることになった場合も、その他の鉛筆、ミリペン、サインペンなどの描画のための画材は、提示する資料を参考に各自で準備してもらいます。

・本科目担当教員が従事したグラフィックデザインに関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	材料加工理論／実習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	60.00
必修・選択区分	選択		
学部等	デザイン学部		
開講年次	1年次		
科目分類	専門教育科目 基本		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 安齋 利典	デザイン
教育職員	石崎 友紀	デザイン
教育職員	張 浦華	デザイン
教育職員	山田 祥子	デザイン

科目のねらい

セラミックス、インダストリアルクレイ（以降”クレイ”）による造形基礎理論と実習を実施する。材料特性を知り、加工方法を習得するとともに、材料に適する造形技術、および、3次元の表現力、造形力を養うことを目的とする。

到達目標

- ①材料の特性と加工方法を知る。
- ②材料特性に基づいた造形ができる。
- ③思い描いた造形を立体に加工できる。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーションと基礎知識（セラミックスとクレイ合同）
第2回	セラミックス：土練りとタタラ成形：皿の成形 クレイ：第1課題（基本造形）1：中子、荒盛り、造形作業
第3回	セラミックス：タタラ成形：型を使い鉢等の成形 クレイ：第1課題（基本造形）2：造形作業、仕上げ、完成
第4回	セラミックス：タタラ成形：型を使いカップ等の成形 クレイ：第2課題（応用造形）1：概要説明、図面・ゲージ・中子作製、荒盛り
第5回	セラミックス：ひも作り：カップ等の成形 クレイ：第2課題（応用造形）2：造形作業
第6回	セラミックス：ひも作り：削り等の仕上げ クレイ：第2課題（応用造形）3：造形作業
第7回	セラミックス：電動ろくろ体験、作品票作成 クレイ：第2課題（応用造形）4：仕上げ、プレゼンテーション準備
第8回	セラミックス：釉薬掛け、後片付け クレイ：プレゼンテーション／評価、後片付け
第9回	クレイ：第1課題（基本造形）1：中子、荒盛り、造形作業 セラミックス：土練りとタタラ成形：皿の成形
第10回	クレイ：第1課題（基本造形）2：造形作業、仕上げ、完成 セラミックス：タタラ成形：型を使い鉢等の成形
第11回	クレイ：第2課題（応用造形）1：概要説明、図面・ゲージ・中子作製、荒盛り セラミックス：タタラ成形：型を使いカップ等の成形

第12回	クレイ : 第2課題 (応用造形) 2 : 造形作業 セラミックス : ひも作り : カップ等の成形
第13回	クレイ : 第2課題 (応用造形) 3 : 造形作業 セラミックス : ひも作り : 削り等の仕上げ
第14回	クレイ : 第2課題 (応用造形) 4 : 仕上げ、プレゼンテーション準備 セラミックス : 電動ろくろ体験、作品票作成
第15回	クレイ : プレゼンテーション／評価、後片付け セラミックス : 釉薬掛け、後片付け
授業計画・内容 (自由記述)	<p>* 前半セラミックス、後半クレイと、前半クレイと後半セラミックスの、2グループに分け、9週目で入れ替えます。</p> <p>* 3月下旬～4月上旬に、スカイウェイで展示会を実施予定です。</p>
事前・事後学習	<p>クレイに関しては、第2課題の造形 (スケッチと三面図) 及びプレゼンテーション用A3レポート (ポートフォリオ対応) を各回に分散して宿題とする。セラミックスに関しては、カップや茶碗などの日常生活道具について、使いやすさ持ちやすさや、取っ手の付け方などについて普段からよく観察すること。粘土から器の焼成までの制作のプロセスや作品写真など含み、A3レポート (ポートフォリオ対応) にまとめて宿題とする。</p>
教科書	適宜資料を配布する。
参考文献	なし
成績評価基準と方法	<p>○小テスト・授業内レポート 30% : 理解、習得技術に関するレポート</p> <p>⇒評価する到達目標①</p> <p>○授業態度 20% : 積極的な姿勢。</p> <p>⇒評価する到達目標①②③</p> <p>○課題・作品 50%</p> <p>⇒評価する到達目標②③</p> <p>○出席 欠格条件 : 2/3以上の出席</p>
関連科目	表現基礎、材料加工理論／実習1
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	<p>授業開始時に、一括購入する材料費 (粘土、クレイ、発泡材等) として5千数百円程度が必要となる。場所と道具類の制約から履修人数の上限を40名程度とする。上限を超過した場合は、抽選によって履修者を決定する。</p> <p>世の中にある製品の形状を、造形的視点から観察すること。特にセラミックスに関しては、日常使っている陶磁器に関して注意深く形状や仕上げを観察すること。</p> <p>本科目担当教員が従事した企業における製品デザイン開発に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>

シラバス参照

講義名	建築計画論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
必修・選択区分	選択		
学部等	デザイン学部		
開講年次	2 年次		
科目分類	専門教育科目 展開		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 山田 信博	デザイン

科目のねらい

建築全体の中での「計画」が果たす役割を明確にし、設計に向けての論理的かつ発明的な思考を行うための知見と思考方法を養成する。具体的には、建築計画の史的理解を通して現代に通ずる計画理念を解説した上で、建築過程における計画の位置づけと条件の定義、特定の施設計画の進め方、空間知覚、ユーザの利用行動、メディアとしての建築などについて講義する。
なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要なとされる指定科目（建築計画）である。

到達目標

- ①建築における「計画」が果たす役割を、史的考察、現代の建築過程における位置づけが理解できていること。
- ②現代の具体的な計画手法を理解し、事例の問題点が指摘できること。
- ③条件の明確な理解と条件に基づいた計画目標の設定、それにふさわしい建築の内容を具体的に計画できる能力がついていること。

授業計画表

回	内容
第1回	授業の概要、建築計画とは
第2回	現代の社会問題と建築
第3回	風土と建築（海外）
第4回	風土と建築
第5回	建築物における事故とバリアフリー
第6回	動線とゾーニング
第7回	変化する建築物
第8回	福祉とコミュニティ
第9回	図書と美術に関する建築物
第10回	住宅 1（住居計画について）
第11回	住宅 2（事例紹介①）
第12回	住宅 3（事例紹介②）
第13回	集合住宅
第14回	建築と緑化
第15回	建築材料と仕上げ

事前・事後学習

授業の内容を理解した上で、実際の建築物の空間を体験すると更に理解が深まる。多くの建築物を設計者の視点で観察することが望ましい。

教科書	適宜資料を配布するため、特定の教科書は使用しない。以下の参考文献等を利用するとよい。
参考文献	世界で一番美しい建築デザインの教科書／鈴木敏彦著（エクスナレッジムック） 住宅をデザインする／建築学教育研究会編（鹿島出版会） 住むための建築計画／佐々木誠著（彰国社） その他講義内で適宜紹介する。
成績評価基準と方法	定期試験（40％）、およびレポート・授業時間内の小課題、授業態度（60％）により評価する。 ○定期試験 40％：用語の理解と内容の論説 ⇒評価する到達目標①②③ ○レポート・授業内課題：実際の建築空間における応用が理解できること（評価する到達目標②③）、授業態度：授業内の課題への積極的な参加（評価する到達目標②③）60％ ○出席 欠格条件：2／3以上の出席
関連科目	デザイン総合実習Ⅰ～Ⅲ、人間空間デザイン論、建築デザイン論、住宅論
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	本講義は、建築図面の基本的読解能力が備わっている事を前提として構成されています。また、履修に当たっては、直感を大切にしながらも論理的な手続きと相対化された評価軸によって建築を考えるために、建築以外の様々な分野の価値基準や評価法を各自で学びながら、本講義を受講する事を望みます。また、本科目担当教員が従事した建築設計の実務経験に基づき上記のとおり授業を行います。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	プロダクトデザイン I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義＋演習
基準単位数	2	時間	30.00
必修・選択区分	選択		
学部等	デザイン学部		
開講年次	2 年次		
科目分類	専門教育科目 展開		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 安齋 利典	デザイン

科目のねらい	プロダクトデザインをするために、HCD : Human Centered Design (人間中心設計プロセス) の考えに則り、生活者や市場の要求事項の把握・分析から具体的な製品のデザインプロセスを学び、的確な問題発見力、問題解決力、表現伝達力、造形力、説明能力等の、プロダクトデザインの基本を理解することを狙いとする。
到達目標	①プロダクトデザインに必要な基礎知識の習得 ②プロダクトデザインに必要な技術／背景の理解
授業計画・内容（自由記述）	<p>次の内容を、授業の各回に割り振って実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション／プロダクトデザインとは ・デザインプロセスとHCD ・利用状況の把握：調査・分析方法 ・ユーザーの要求事項の明示：コンセプトの策定 ・デザインによる解決案策定：アイデア生成とスケッチの基礎 ・評価：コンセプトの説明／プレゼンテーションと評価 ・デザインによる解決案策定：スタイリング、カラーリング、ユーザビリティ ・デザインによる解決案策定：スケッチの応用 ・デザインによる解決案策定：スケッチから図面 ・デザインによる解決案策定：図面とデザイン仕様、材料、機構／構造 ・デザインによる解決案策定：三面図 ・デザインによる解決案策定：モデルの意義 ・デザインによる解決案策定：モデルの事例 ・プレゼンテーションと評価／まとめ ・レポート課題
事前・事後学習	今後のプロダクトデザイン開発のひな形となるよう、毎回、各授業のまとめと次回の準備に関する課題を課す。最終的にはA3のレポート（ポートフォリオ）としてまとめる。
教科書	なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「プロダクトデザイン—商品開発に関わる全ての人へ」／日本インダストリアルデザイナー協会編（株式会社ワークスコーポレーション） ・「誰のためのデザイン」／D. A. ノーマン、野島久雄訳（新曜社認知科学選書） ・「こんなデザインが使いやすさを生む」／三菱電機デザイン研究所編（工業調査会） ・「プロダクトデザインのためのスケッチワーク」／増成和敏（オーム社） https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000007384
成績評価基準と方法	<p>○小テスト・授業内レポート 40%：毎回の授業のレポート ⇒評価する到達目標①②</p> <p>○授業態度 20%：レポート類の提出状況 ⇒評価する到達目標①②</p> <p>○作品 20%：最終レポート ⇒評価する到達目標①②</p> <p>○出席 20%：2/3以上の出席 ⇒評価する到達目標①②</p>
関連科目	人間情報デザイン論、表現基礎（描画）、（製図）、デザイン工学、材料加工理論／実習 I、II、プロダクトデザイン II、デザイン総合実習 I ～ IV

<p>その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）</p>	<p>企画からプロダクトデザインの完成に至るデザインプロセスを理解していただきます。ユーザーの立場、組織（企業等）の立場に立ちながら、課題解決者としてのデザイナーのプロダクトデザインに対する考え方を養い、アイデアを実現するための道筋を理解することを目指します。</p> <p>本科目担当教員が従事した企業における製品デザイン開発に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>
-------------------------------	---

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	協同デザインⅡ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義＋演習
基準単位数	2	時間	30.00
必修・選択区分	選択		
学部等	デザイン学部		
開講年次	2年次		
科目分類	専門教育科目 展開		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 若林 尚樹	デザイン

科目のねらい

協同デザインという視点からデザインプロセスとその運用のための手法について、その基本的な考え方を学ぶとともに、そこから得られた視点をもとにいくつかのプロジェクト課題を通して体験的に学ぶ。とくに「観察と共感」、「課題発見」、「仮説の構築と提案」、「検証・評価」というデザインプロセスを事例のひとつとして、デザイン手法を体験的に学ぶ。なお、この授業は企業における実務の経験をもとに実施します。

到達目標

- ① 自分たちの生活の中で使われているさまざまなデザイン、およびそのデザインプロセスについて関心を持つ
- ② デザインプロセスとその運用のための手法についてその基本的な考え方を学ぶ
- ③ 観察、課題発見、仮説の構築と提案、検証・評価の一連のプロセスの中で学ぶ

授業計画表

回	内容
第1回	ガイダンス：協同デザインの視点、アプローチ
第2回	協同デザインのための視点1「みえるか!?」 導入（基本となる考え方）
第3回	協同デザインのための視点2「わかるか？」 分析とコンセプトワーク
第4回	協同デザインのための視点3「できるか？」 プロトタイプと中間発表
第5回	協同デザインのための視点4「できるか？」 グループワークとクリニック
第6回	協同デザインのための視点5「みせるか？」 グループ発表と振り返り
第7回	協同でデザインするための手法1 課題設定
第8回	プロジェクト課題1 デザインプロセスとコンセプト
第9回	プロジェクト課題2 アイディアの展開
第10回	プロジェクト課題3 中間発表（検証と評価）
第11回	プロジェクト課題4 協同でデザインするための手法2
第12回	プロジェクト課題5 提案検討と分析
第13回	プロジェクト課題6 デザインプロセスと進行管理
第14回	プロジェクト課題7 提案検討とクリニック
第15回	プロジェクト課題8 最終発表と振り返り

事前・事後学習

準備学修として、授業計画にそって各授業で取り上げる分野におけるテーマを題材に、協同デザインという視点から意識して見直してみるよう、授業時に具体的な指示をする。それに従って授業時間相当の調査をおこない、指示にしたがってレポートや課題を作成すること。また、発表準備、素材制作、課題への提案の作成など、授業時間外の作業が必要となる。

教科書	授業の中で資料を適宜配布する。
参考文献	授業の中で資料を適宜紹介する。
成績評価基準と方法	<p>授業態度・提出課題・発表の結果を総合して評価する。</p> <p>○授業内レポート 20%：リフレクションペーパーやレポートをもとに評価する ⇒評価する到達目標 ①②③</p> <p>○授業態度 20%：授業時間を効果的に活用して制作を行う ⇒評価する到達目標 ①②③</p> <p>○発表 25%：課題条件にそった提案の意図や内容などを説明できる ⇒評価する到達目標 ①②③</p> <p>○作品 35%：出題条件にそった課題をすべて提出していること ⇒評価する到達目標 ①②③</p> <p>○出席2/3以上の出席が必要欠格条件</p>
関連科目	協同デザインⅠ、アイデア生成プロセス
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	授業外での調査、取材、グループワークが必要となることもある。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ビジュアライゼーションⅡ（人間情報）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義＋演習
基準単位数	2	時間	30.00
必修・選択区分	選択		
学部等	デザイン学部		
開講年次	3年次		
科目分類	専門教育科目 展開		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 藤木 淳	デザイン

科目のねらい

可視化（ビジュアライゼーション）するために必要な多様な情報の入出力方法を習得し、それらを活用したビジュアライゼーションデザインが行えることを狙いとする。

到達目標

- ①多様な情報の入出力方法の知見を得る
- ②1つ以上の情報の入出力方法が使いこなせる
- ③これらを活用したビジュアライゼーションをデザインできる

授業計画表

回	内容
第1回	講義と演習
第2回	講義と演習
第3回	講義と演習
第4回	講義と演習
第5回	講義と演習
第6回	講義と演習
第7回	講義と演習
第8回	講義と演習
第9回	講義と演習
第10回	講義と演習
第11回	作品制作
第12回	作品制作
第13回	作品制作
第14回	作品制作
第15回	プレゼンテーションと講評

授業計画・内容（自由記述）

第1回～第10回 講義と演習
第11回～第14回 作品制作
第15回 プレゼンテーションと講評

「講義と演習」では、受講生らの理解度や熟練度等に応じて「グラフィック」「ビデオ」「ゲームパッド」「ネットワーク」「サウンド」「3Dプリンタ」のすべて、あるいはいずれかのテーマで、可視化のために必要となる情報の入出力方法を学ぶ。これらを踏まえ、課題に沿った作品を制作し、最終的に講評する。

事前・事後学習	本授業ではプログラミングソフトProcessingやArduinoを主に使用するため、ある程度プログラミングの知識があることが好ましい。
教科書	使用しません。適宜資料を配布します
参考文献	プログラミング関係、電子回路関係、3Dプリンタ関係
成績評価基準と方法	<p>○授業態度 20%：授業に対する積極的な参加姿勢 ⇒評価する到達目標①</p> <p>○発表 30%：プレゼンテーション能力 ⇒評価する到達目標③</p> <p>○作品 50%：①期待する結果へと導ける総合的スキル②独創性、洞察力 ⇒評価する到達目標②③</p> <p>○単位取得条件：2/3以上の出席、最終課題の提出</p>
関連科目	プログラミングⅠ＆Ⅱ
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	<p>ビジュアライズは人間が分からないこと（分かりにくいこと）を分かる（分かりやすくする）ことが重要であり、必ずしもビジュアライズ＝グラフィック（静止画）ではありません。そのことを踏まえ、本授業では多様なビジュアライズ表現に対するアプローチの可能性を学ぶことを目的とします。</p> <p>本科目担当教員が従事したデジタルコンテンツ開発および3DCGソフトウェア開発に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	観光デザイン論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義＋演習
基準単位数	2	時間	30.00
必修・選択区分	選択		
学部等	デザイン学部		
開講年次	4年次		
科目分類	専門教育科目 展開		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 大島 卓	デザイン

科目のねらい

多様な側面を持つ「観光」を「デザイン」の視点からとらえ、地域再生という新たな社会的課題に対する「観光」の役割や意義・現状の課題について考察する。
自然・歴史・文化・生活・産業など、地域特性や資源を再確認し、地域の魅力を引き出すための方法を学ぶとともに、演習課題やプレゼンテーションを通して企画立案の実践的方法論を身につける。演習課題では、北海道および札幌市を対象とした観光ツアーの企画や観光地の改善計画等に取組む。

到達目標

- ①「観光」や「ツーリズム」に係る基礎知識を習得し、企画立案に活かすことが出来る。
- ②資料蒐集やフィールドサーベイにより地域資源を発見し、提案に結びつける事が出来る。
- ③グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、他者と協働しデザイン提案を行う事が出来る。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション（本科目の意義、本学DPとの位置付け、授業計画の確認）、観光体験シート（選出理由・地域特性・移動手段・記憶・特徴等）の作成
第2回	レクチャー１：観光の全体像①（観光学の定義）
第3回	レクチャー２：観光の全体像②（観光学の定義、北海道観光の近年の動向）
第4回	レクチャー３：観光の全体像③（北海道観光の近年の動向）
第5回	グループ演習（観光のツアー企画と商品化：課題設定（対象・期間・ルート等）・ディスカッション）
第6回	グループ演習（観光のツアー企画と商品化：ディスカッション・提案のとりまとめ）
第7回	グループ演習（発表・相互評価）
第8回	レクチャー４：文化遺産と観光デザイン①
第9回	レクチャー５：文化遺産と観光デザイン②
第10回	レクチャー６：札幌市内の観光地の現状と課題①
第11回	レクチャー７：札幌市内の観光地の現状と課題②
第12回	グループ演習（観光地の改善計画：課題設定（対象者・対象地域・ルート等）・ディスカッション）
第13回	グループ演習（観光地の改善計画：ディスカッション・提案のとりまとめ）
第14回	グループ演習（発表・相互評価）
第15回	まとめ（「観光」に果たす「デザイン」の役割とは）、観光体験シートのブラッシュアップ

事前・事後学習

事前学習として、参考文献に掲げた文献のほか関連資料について通読し、授業で取り扱

	<p>う専門領域の基礎的理解を進めておくことが求められます。 事後学習として、授業内で配付した資料や授業内で取り上げた内容に関する復習を行い、専門知識の定着化に努めることが求められます。</p>
教科書	<p>授業時に適宜ハンドアウトを配付します。</p>
参考文献	<p>『観光の地域ブランディング ―交流によるまちづくりのしくみ―』 敷田麻美ほか（学芸出版社） 『生きている文化遺産と観光 住民によるリビングヘリテージの継承』 藤木庸介ほか（学芸出版社） 『観光による地域社会の再生 ―オープン・プラットフォームの形成に向けて―』 森重昌之（現代図書）</p>
成績評価基準と方法	<p>3分の1を超えて欠席すると単位が出ません。成績評価は授業やグループディスカッションへの参加状況（受講態度含）40%、プレゼンテーション30%、課題30%等により、総合的に判断します。</p> <p>○授業態度 40%：評価基準・授業やディスカッションへの積極的な姿勢・発言 ⇒評価する到達目標①③</p> <p>○発表 30%：評価基準・プレゼン能力と発表内容 ⇒評価する到達目標③</p> <p>○作品 30%：評価基準・課題提出物の充実度 ⇒評価する到達目標②</p> <p>○出席2/3以上の出席：欠格条件</p>
関連科目	<p>都市計画論</p>
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	<p>授業計画は前後する事があります。オリエンテーションにて詳細なスケジュールを配付します。 本科目担当教員が従事したまちづくりや地域振興に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>



シラバス参照

講義名	看護初期実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1	時間	45.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	1年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 藤井 瑞恵	看護
教育職員	工藤 京子	看護
教育職員	神島 滋子	看護
教育職員	大野 夏代	看護
教育職員	守村 洋	看護
教育職員	菅原 美樹	看護
教育職員	村松 真澄	看護
教育職員	原井 美佳	看護
教育職員	山本 真由美	看護
教育職員	檜山 明子	看護
教育職員	矢野 祐美子	看護
教育職員	本田 光	看護
教育職員	伊東 健太郎	看護
教育職員	高橋 奈美	看護
教育職員	武富 貴久子	看護

科目のねらい	看護初期実習は、看護職が活動する地域の保健・医療・福祉の場において、看護職や関連職種の活動を見学体験し、保健・医療・福祉分野への関心と理解を深め、看護学を学ぶ動機づけとする。看護の実際を見学することにより、他職種の専門性と看護職とのかわりを理解する。
到達目標	①看護の対象は、様々な健康レベルにある人々であることを知る。 ②人々の健康生活を支える看護実践の場を知る。 ③保健・医療・福祉施設での看護場面を通して、看護の役割を考える。 ④対象者の健康上のニーズの充足に対して保健・医療・福祉に関わる他職種との連携を知る。 ⑤看護を学ぶ上での自己の目標を持つことができる。 ⑥看護学生として責任ある行動をとることができる。
授業計画・内容（自由記述）	1. 実習オリエンテーション 看護初期実習の目的、目標、実習方法および実習施設の概要について、オリエンテーションを行う。実習前に2回（5月下旬）と実習初日（6月8日）に、計3回実施する。 2. 臨地実習 下記施設において見学実習を行う（火・水・木曜日の3日間） <保健> ・札幌市中央健康づくりセンター：さっぽろ健康スポーツ財団 ・札幌複十字総合健診センター：北海道結核予防会 ・札幌がん検診センター：北海道対がん協会 ・北海道病院健康管理センター：独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）

	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌厚生病院健診センター ・溪仁会円山クリニック <p><医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立札幌病院（病棟、救命救急センター） <p><福祉></p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市老人福祉センター：札幌市社会福祉協議会 <p>3. 学内実習 実習最終日に実習のまとめを行う（金曜日）</p>
事前・事後学習	見学実習する施設の概要、役割、機能などについて情報収集し、まとめる。
教科書	使用しない。
参考文献	適宜、指示する。
成績評価基準と方法	<p>実習内容および記録（80%）、実習レポート（20%）から実習目標の達成度を総合的に評価する。</p> <p>○実習記録 30%：ルーブリックで評価 ⇒評価する到達目標①②③④⑤</p> <p>○実習態度 30%：実習の留意事項 ⇒評価する到達目標①②③④⑤⑥</p> <p>○記録物 20%：ルーブリックで評価 ⇒評価する到達目標①②③④⑤</p> <p>○実習レポート 20%：ルーブリックで評価 ⇒評価する到達目標①②③④⑤</p> <p>○出席 欠格条件：2/3未満の出席で欠格</p>
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	<p>看護初期実習では、看護を広く概観し、現場での経験からひとりひとりが感じ取ったことを、次の学習に活かすことを目指しています。体調を十分に管理して履修しましょう。</p> <p>本科目担当教員が従事した保健・医療機関に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎看護学臨床実習Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1	時間	45.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	1年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 武富 貴久子	看護
教育職員	樋之津 淳子	看護
教育職員	大野 夏代	看護
教育職員	定廣 和香子	看護
教育職員	檜山 明子	看護
教育職員	田仲 里江	看護
教育職員	柏倉 大作	看護
教育職員	石引 かずみ	看護
教育職員	中田 亜由美	看護
教育職員	近藤 圭子	看護
教育職員	大友 舞	看護
教育職員	渋谷 友紀	看護
教育職員	鬼塚 美玲	看護
教育職員	高橋 葉子	看護
教育職員	田中 純	看護
教育職員	齋 若奈	看護

科目のねらい	看護の対象となる患者および患者が生活する療養環境について観察やコミュニケーションの体験を通して理解を深めるとともに、臨床場面の参加観察および看護技術の一部実施を通して、専門職としての看護師の援助の専門性について考察する。また、看護学生として自主的・自律的な行動の必要性を認識し、今後の学修課題を考察する。
到達目標	①「看護の対象を知る」ための方法を理解する。 ②患者が生活する療養環境を理解する。 ③専門職としての看護師の援助の独自性を理解する。 ④看護学生としての自己が実習に与える影響を考慮して行動する。 ⑤学習者として自主的・自律的に行動する。 ⑥実習での学びをもとに専門職を目指す看護学生としての学修課題を明確にする。
授業計画・内容（自由記述）	別途配布する「基礎看護学臨床実習Ⅰ実習要項」に基づいて、オリエンテーションを行います。 実習に関する変更がある場合は、オリエンテーション時に説明します。 実習施設：市立札幌病院、手稲区仁会病院
教科書	なし
参考文献	なし
成績評価基準と方法	実習評価表に基づき、到達目標の達成度を評価基準として、下記のように評価します。ただし、2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象となりません。

	<p>○実習内容・記録 80%：到達目標の達成度</p> <p>⇒評価する到達目標①②③④⑤⑥</p> <p>○レポート 20%：到達目標の達成度</p> <p>⇒評価する到達目標①②③⑥</p>
関連科目	看護学原論、看護観察技術論
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	<p>1年次・前期の必修単位をすべて修得していることが望ましい。医療の対象者や場に応じた挨拶、実習にふさわしい態度や身だしなみ、自己の健康管理に注意して取り組んでください。</p> <p>本科目担当教員が従事した看護実践に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎看護学臨床実習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	90.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	2年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 大野 夏代	看護
教育職員	樋之津 淳子	看護
教育職員	定廣 和香子	看護
教育職員	檜山 明子	看護
教育職員	田仲 里江	看護
教育職員	柏倉 大作	看護
教育職員	石引 かずみ	看護
教育職員	中田 亜由美	看護
教育職員	近藤 圭子	看護
教育職員	大友 舞	看護
教育職員	渋谷 友紀	看護
教育職員	鬼塚 美玲	看護
教育職員	高橋 葉子	看護
教育職員	田中 純	看護
教育職員	武富 貴久子	看護
教育職員	齋 若奈	看護

科目のねらい	医療機関で療養生活をおくる患者を担当し、基本的な欲求に基づく生活援助を中心に看護過程を展開する。生活援助における基礎看護技術の一部を安全・安楽に実践するとともに、ケアの説明と同意を得るためのコミュニケーションスキル、看護ケアの実践的方法を学ぶ。以上により、看護の対象となる患者とその家族の特性および看護の必要性についての理解を深め、今後の学修のモチベーションを高める。
到達目標	①ヘンダーソンの看護理論を用いて看護過程を展開し、受け持ち患者の日常生活を援助する。 ②看護実践における倫理的行動の重要性を理解し、安全で責任ある行動をとる。 ③上記2つの目標の達成にむけた過程を通して自己の学修課題を明確にする。
授業計画・内容（自由記述）	別途配布する「基礎看護学臨床実習Ⅱ要項」に基づいて、オリエンテーションを行う。 実習時期：5月25日～6月5日 実習施設：市立札幌病院、手稲溪仁会病院
教科書	なし
参考文献	なし
成績評価基準と方法	実習評価表にもとづき、到達目標の達成度を評価基準として、下記のように評価します。ただし、2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としません。

	<p>○実習内容・記録 76%：到達目標の達成度</p> <p>⇒評価する到達目標①②③</p> <p>○レポート 24%：到達目標の達成度</p> <p>⇒評価する到達目標①②③</p> <p>○出席 欠格条件：2／3 以上の出席</p>
関連科目	看護過程論
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	<p>1 年次の必修単位をすべて修得していることを期待します。既修の知識・技術を統合できるようレディネスを十分整えて実習に臨みましょう。患者様やご家族から学ばせて頂くという看護学生としての基本的な態度と心構えを忘れないこと。対象や場に応じた挨拶や言葉遣い、実習にふさわしい身だしなみ、自己の健康管理も大切です。</p> <p>本科目担当教員が従事した看護実践に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	小児看護学臨床実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	90.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	3年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 牧田 靖子	看護
教育職員	松浦 和代	看護
教育職員	田中 純	看護

科目のねらい	小児看護の対象特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。 ①子どもの成長・発達・保育について理解を深める。 ②健康障害をもつ子どもと家族への生活支援について学ぶ。
到達目標	① 保育園実習を通して、子どもの健康生活、育児支援、ヘルスプロモーションやセイフティプロモーションの基礎知識をふまえた看護実践を行う基礎的能力を養うことができる。 ②①について、その効果を評価できる。 ③ 病棟・外来実習を通して、疾患や障がいをもつ子どもと家族の看護、生活習慣の自立支援、健康教育や家族支援の基礎知識をふまえて、看護実践を行う基礎的能力を養うことができる。 ④③について、その効果を評価できる。 ⑤臨床実習を通して、対象者やチームメンバーとの効果的なコミュニケーション能力を向上させる。
授業計画・内容（自由記述）	実習は、3か所（保育園、病棟、外来）で行う。 ①保育園→外来→病棟、②病棟→保育園→外来のグループにわかれて実施する。 実習施設は、以下の通りである。 保育園実習：公立保育園・子育て支援センター 病棟・外来実習：市立札幌病院・KKR札幌医療センター・天使病院・札幌医科大学附属病院 実習内容の詳細は、実習要項に記載する。
教科書	なし
参考文献	小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護技術論で使用した教科書および配布資料
成績評価基準と方法	○実習内容 50%：効果的なコミュニケーション能力、アセスメント能力、看護実践能力、安全への配慮 ⇒評価する到達目標①②③④⑤ ○実習記録物 30%：実習での学び、子どもの理解、アセスメントから実践・評価までの記述内容 ⇒評価する到達目標①②③④⑤ ○実習態度 20%：責任ある行動、主体的な学習姿勢 ⇒評価する到達目標①②③④⑤ ○出席 欠格条件：2/3以上の出席
関連科目	小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護技術論
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	保育園・病棟・外来、それぞれの社会の中で、一人一人の子どもとその家族が生きている姿を感じとってください。子どもの目線の高さに大人のあなたが合わせ、遊び心を

もって関わりましょう。子どもたちや子どもと接する大人（看護師・保育士）から多くのことを学ぶことを期待します。

実習時期は冬季であり、子どもたちと接するにはエネルギーが必要です。うがいと衛生的な手洗いをし、しっかりと体調管理しながら実習に臨んでください。

本科目担当教員が従事した小児看護に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	母性看護学臨床実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	90.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	3年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 山本 真由美	看護
教育職員	石引 かずみ	看護
教育職員	大友 舞	看護
教育職員	荒木 奈緒	看護

科目のねらい	母性看護の対象特性と看護の特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識・技術・態度を養う。
到達目標	①妊娠・分娩・産褥期にある母子（含、胎児および家族）の特性が理解できる。 ②産褥期にある対象者の看護過程が理解できる。 ③対象者の意思と安全に配慮した看護が実践できる。 ④母子を取り巻く医療・保健チームの連携・協働について説明できる。 ⑤母性看護学臨床実習を通し、生命または生命誕生について考察できる。 ⑥看護学生としての自覚を持って、学修を進めることができる。 ⑦母性看護学臨床実習を通し、看護者としての自己課題と今後の行動目標を明確にすることができる。
授業計画・内容（自由記述）	1) 実習施設：市立札幌病院・天使病院・JCHO北海道病院・札幌医科大学附属病院 2) 実習期間：2020年11月24日～2020年12月18日 2021年 1月18日～2021年 1月29日 この期間に上記いずれかの施設にて、2週間の実習を行う。 3) 実習内容：オリエンテーション、外来実習、病棟実習、NICU実習、学内実習、カンファレンス、実習報告会 詳細は、別途配布する「母性看護学臨床実習要項」を参照のこと。
事前・事後学習	事前学習：母性看護技術論で実施した看護過程および看護技術を再確認してください。 実習時にすぐに確認できる携帯用の参考資料を作成し、知識を整理して臨んでください。 事後学習：実習要項に沿って、「自己目標の達成度・今後の課題」「実習を通しての学び」「母性看護学臨床実習を通し、生命または生命誕生について考えたこと」について、まとめてください。
教科書	有森直子編：「母性看護学Ⅱ 周産期各論（第2版）」，（医歯薬出版，2020年）
参考文献	有森直子編：「母性看護学Ⅰ 概論（第2版）」，（医歯薬出版，2020年） 森恵美他：「系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学〔1〕」，（医学書院，2016年） 森恵美他：「系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学〔2〕」，（医学書院，2016年） 平澤美恵子他：「写真でわかる母性看護技術アドバンス」，（インターメディカ，2017年） 小林康江他編：「ナースンググラフィカ 母性看護学（2）母性看護の実践」，（メディカ出版，2019年） 太田操編：「ウエルネス看護診断にもとづく看護過程（第3版）」，（医歯薬出版，2017年） 大平光子他編：「母性看護学Ⅱ：マタニティサイクル（改訂第2版）」，（南江堂，2018年） 中村幸代編：「根拠がわかる母性看護過程」，（南江堂，2018年） 佐瀬正勝他編：「ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図（第3版）」，（医学書院，2016年）

成績評価基準と方法	<p>実習内容、実習記録、実習態度および出席による総合評価。 単位修得には総合評価60%以上が必要となる。 なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。</p> <p>○実習 100% : 実習内容、実習記録、実習態度を評価基準に基づいて評価する。 ただし、記録提出が遅れた場合は減点として扱う。 ⇒評価する到達目標①②③④⑤⑥⑦</p> <p>○出席 : 2/3以上の出席が必要となる。 ただし、欠席・遅刻・早退は減点として扱う。 ⇒評価する到達目標①②③④⑤⑥⑦</p>
関連科目	人間発達援助論、母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護技術論、小児看護援助論、小児看護技術論
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	<p>本科目は、学内での学修を統合する重要な位置づけです。実習では周産期に焦点を当てて学修します。実習前に既習の知識・技術を十分復習し、準備を整えて臨んでください。特に、看護過程の展開を振り返り、再確認をしてください。実習後に「今後の課題」を明確にすることは、看護を積み上げるうえでとても重要です。丁寧に振り返りましょう。</p> <p>母性看護の特性上、受け持ち期間が短いため、この期間に体調を崩すと看護過程の展開に影響を及ぼすこととなりますので、体調管理には十分留意してください。</p> <p>なお、本科目担当教員が従事した母性看護に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	成人看護学臨地実習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	3	時間	135.00
必修・選択区分			
学部等			
開講年次			
科目分類			

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 工藤 京子	看護
教育職員	神島 滋子	看護
教育職員	藤井 瑞恵	看護
教育職員	菅原 美樹	看護
教育職員	田仲 里江	看護
教育職員	柏倉 大作	看護
教育職員	川村 三希子	看護
教育職員	小田 和美	看護
教育職員	中田 亜由美	看護
教育職員	近藤 圭子	看護
教育職員	大友 舞	看護
教育職員	渋谷 友紀	看護
教育職員	鬼塚 美玲	看護
教育職員	高橋 葉子	看護
教育職員	卯野木 健	看護
教育職員	齋 若奈	看護

科目のねらい	成人期にある対象を科学的視点でアセスメントし、個々の対象の健康レベルに応じた援助を実践するため、学習した技術を用いて看護過程を展開する能力を養う。
到達目標	①成人期にある対象をライフサイクルの側面から捉える。 ②成人期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から統合的に捉える。 ③成人期にある対象の健康・疾病レベル、環境をアセスメントする。 ④看護問題を解決するための援助方法を計画する。 ⑤成人期にある対象の状況に合わせて援助を実施し、評価する。 ⑥成人期にある対象と援助の人間関係を形成する。 ⑦看護学生としての役割・責任を果たす。
授業計画・内容（自由記述）	実習時期：2020年10月26日～11月13日 実習施設：市立札幌病院、手稲溪仁会病院 実習方法：詳細は実習要項を参照
事前・事後学習	実習オリエンテーションで具体的な事前学修内容を提示し、準備できるようにします。実習で必要となる看護技術について、教育補助員にも指導してもらえるよう調整します。
教科書	特になし
参考文献	適宜、紹介するため担当教員に相談すること

成績評価基準と方法	<p>実習内容、実習記録、実習態度、実習報告会、実習レポートから、実習目標の達成度を総合的に評価します。</p> <p>○実習内容と実習記録 80% 目標到達度を4段階で評価 ⇒評価する到達目標：①②③④⑤⑥⑦</p> <p>○実習態度 5% 継続した積極的な取り組み姿勢 ⇒評価する到達目標：⑤⑥⑦</p> <p>○実習報告会 5% テーマに適した報告と協力姿勢 ⇒評価する到達目標：①②③④⑤⑦</p> <p>○実習レポート 10% テーマに適した内容 ⇒評価する到達目標：①②③④⑤</p> <p>○出席 欠格条件：2/3以上の出席</p>
関連科目	<p>成人看護学概論、成人看護援助論、症状マネジメント論、看護過程論、援助の人間関係論、基礎看護学臨地実習Ⅱ、形態機能学、疾病治療学など既習科目全般</p>
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	<p>4年間の中の前半までの学修内容を統合する重要な実習です。実習までに必修単位を全て修得していることを期待します。また実習期間は3週間と長く、患者さんという相手がいるため、自分自身の体調管理ができる力も求めています。看護職を目指す学生として自己課題を明確にして目的意識を持って臨んでください。</p> <p>本科目は担当教員が従事した臨床看護に関する実務経験に基づき、実習を担当します。</p>

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	成人看護学臨床実習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	90.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	3年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 菅原 美樹	看護
教育職員	工藤 京子	看護
教育職員	神島 滋子	看護
教育職員	藤井 瑞恵	看護
教育職員	柏倉 大作	看護
教育職員	川村 三希子	看護
教育職員	小田 和美	看護
教育職員	卯野木 健	看護
教育職員	齋 若奈	看護

科目のねらい	成人期にある対象の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。疾病・健康問題に応じた生活支援と保健医療チームについて学ぶ。
到達目標	<p>①対象の特性と看護ケアの特殊性が説明できる。</p> <p>②疾病・健康問題が対象と家族に及ぼす影響について、多角的な視点で統合的にアセスメントできる。</p> <p>③対象の健康問題と強みを明らかにし、健康回復、適応促進、生活の再構築に必要な看護ケアの計画・実践・評価という一連の看護過程を展開することができる。</p> <p>④対象の療養生活を支援する保健・医療・看護・福祉チームの役割と機能について説明できる。</p> <p>⑤看護専門職を目指す学生として、自覚と責任を行動で示すことができる。</p>
授業計画・内容（自由記述）	実習施設：市立札幌病院 実習方法：実習要項参照
教科書	なし
参考文献	適宜、担当教員と相談すること。
成績評価基準と方法	<p>実習内容・提出された実習記録物、実習態度、ケースカンファレンス、レポートから実習目標の達成度を総合的に評価します。</p> <p>○実習内容と記録 80%：目標達成度を4段階で評価 ⇒評価する到達目標①②③④⑤</p> <p>○実習態度 10%：積極的に実習に臨む姿勢とチームへの貢献度 ⇒評価する到達目標⑤</p> <p>○ケースカンファレンス 5%：簡潔明瞭な事例紹介と自身の看護実践の報告 ⇒評価する到達目標②③</p> <p>○実習レポート 5%：テーマに適した内容 ⇒評価する到達目標①②③</p> <p>○出席 欠格条件：2/3以上の出席</p>
関連科目	全ての既習科目が該当する。特に看護過程論、症状マネジメント論、成人看護学概論、成人看護援助論、成人看護技術論、形態機能学、疾病治療論など。
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	

成人看護学領域における集大成となる実習です。これまでの学修内容を整理し、自己課題を明確にして、主体的・計画的に実習に臨むことを期待します。
本科目は担当教員が従事した臨床看護に関する実務経験に基づき、実習を担当します。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	老年看護学臨地実習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1	時間	45.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	3年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 原井 美佳	看護
教育職員	村松 真澄	看護
教育職員	貝谷 敏子	看護
教育職員	中田 亜由美	看護

科目のねらい	地域で生活する高齢者との交流を通して、老年期にある人の発達課題、身体的な側面、精神的な側面、社会的な側面、健康と生活上の課題について総合的に理解する。この理解を通して、多様な健康レベルにある高齢者の看護に必要な基礎的知識と態度を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の場が地域包括ケアシステムにおいて果たす役割を説明できる。 2. 実習の場の運営にかかわる人々とその役割を説明できる。 3. 実習の場を利用することの意義と効果を説明できる。 4. 加齢に伴う身体的、精神的、社会的な側面を具体的にアセスメントできる。 5. 生活や疾病経験に基づく健康課題への取り組みについて具体的に説明できる。 6. 老年看護学の学修に基づき、高齢者のアクティビティを計画できる。 7. 実習の場と対象に応じた安全で効果的なアクティビティを実践できる。 8. 実習の場と対象に応じたアクティビティの実践を評価できる。 9. 老年期にある対象と援助の人間関係を形成することができる。 10. メンバーとグループダイナミクスを発揮しながら実習を進めることができる。 11. 看護学を学ぶ自覚を持ち、担当者と教員へ適時の報告、連絡、相談ができる。
授業計画・内容（自由記述）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習は老人クラブ、老人福祉センター、サービス付き高齢者向け住宅で行う。 2. 詳細はオリエンテーションで周知する。
事前・事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的に実習を進められるように実習要項を熟読すること 2. 各実習の場について事前に学習すること
教科書	使用しない
参考文献	<p>奥野茂代 他 老年看護学概論と看護の実践 第6版 スーベルヒロカワ 2019</p> <p>中島紀恵子 監修・編集 認知症の人びとの看護 第3版 医歯薬出版 2017</p>
成績評価基準と方法	<p>下記に基づき到達目標の達成度を総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況（欠格要件）2/3以上の出席

	2. 実習評価項目（1-17）100% なお、本科目に対する取り組みの状況は評価の参考とする。
関連科目	老年看護学概論 老年看護学援助論 認知症ケア
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	これまでの老年看護学の学修をもとに、高齢者との交流を通して学ぶ実習です。 科目のねらいを十分に理解し、主体的に到達目標を達成できるように、グループメンバーと協力して取り組んでください。 本科目担当教員が従事した老年看護学に関する実務経験に基づき、上記のとおり実習を行います。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	老年看護学臨床実習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	90.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	3年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 村松 真澄	看護
教育職員	原井 美佳	看護
教育職員	貝谷 敏子	看護
教育職員	中田 亜由美	看護

科目のねらい	高齢者の加齢や疾病に影響される生活機能を含めて統合的にアセスメントできる。看護上の課題（強みを含めた）を抽出し、ウェルネス思考で老年看護過程を展開できる。その上で、対象の自立・自律を尊重し、生活の質QOLを高め、満足度の高い支援が実践できる。老年期にある対象が人生の最終段階まで地域で暮らすことを支える基礎的能力を養う。
到達目標	1. 実習施設の概要と目的、特徴および地域包括ケアの中での役割を説明できる。 2. 対象の身体的、精神的、社会的、発達の側面から統合的にアセスメントができる。 3. 対象の人生と価値観、望む生活について、言葉や態度から把握または想像できる。 4. 対象の健康課題をアセスメントし、看護上の課題（強みも含めて）を抽出し、ウェルネス思考で看護計画の立案ができる。 5. 看護計画を個別性のある具体的な援助方法で実施し、評価することができる。 6. 対象やその家族と援助の人間関係を形成することができる。 7. 対象の人権を擁護し、人生と人格を尊重した態度を表出できる。 8. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を説明でき、学生としての立場で役割を果たすことができる。
授業計画・内容（自由記述）	実習は、施設や病院で行う。 詳細は、実習要項とオリエンテーションで周知する。
教科書	奥野茂代 編著 老年看護学概論と看護の実践 第6版 東京 ヌーベルヒロカワ 2019 真田弘美、正木治恵 編集：看護学テキストシリーズNICE、老年看護学技術改訂第3版 最後までその人らしく生きることを支援する。東京、南江堂、2020 新版 認知症の人々の看護 3版 中島紀恵子 著、編集 医歯薬出版
参考文献	適宜紹介する
成績評価基準と方法	○実習 80%：到達目標達成度 主体的な姿勢 ○レポート 20%：内容の適切性 ○出席：欠格条件：2/3未満の出席で欠格
関連科目	老年看護学関連科目
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	本科目担当教員が従事した老年看護学および地域支援医療に関する実務経験に基づき、上記の通り授業を行います。 これまでの学習を統合する重要な実習です。寒い季節で感染症も流行する時期なので体調管理を実施してください。学生もチームの一員であることを理解して臨床指導者と報告・連絡・相談を密にしてください。対象や場に応じた挨拶や言葉遣い、実習にふさわしい身だしなみ、自己の健康管理にも注意して実習に取り組んでください。対象者も学生自身にも事故がないように気をつけてください。



シラバス参照

講義名	精神看護学臨地実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	90.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	3年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 伊東 健太郎	看護
教育職員	守村 洋	看護

科目のねらい	精神看護の特性と、看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。
到達目標	①対象とのかかわりを通し、精神障害をもつ対象への理解を深める。 ②精神障害リハビリテーションを通して、看護の役割を説明できる。 ③治療的コミュニケーション技法および精神科における看護援助を実践する。
授業計画・内容（自由記述）	別途、配布する「精神看護学臨地実習要項」「オリエンテーション資料」に基づいて、オリエンテーションを受け、2週間の精神看護学臨地実習に臨む。 精神科病棟において1週間の実習を行い、もう1週間はデイケア、就労移行支援、就労継続支援施設等社会資源にて実習を行う。週の順序は問わない。実習1週目の最終日は、学内にてロールプレイを行う。また、視聴覚による学内実習を行う。実習2週目の最終日は、学内にて実習報告会を行い、実習での学びを深める。
教科書	『看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術』／山本勝則ら編（メヂカルフレンド社）
参考文献	『精神障害者の退院計画と地域支援』／田中美恵子編著（医歯薬出版）
成績評価基準と方法	実習目標の到達度（90点）、学内演習・報告会（10点）とする。出席参与度（欠席、遅刻、早退、実習態度）は、減点法とする。なお、2/3以上の出席を満たさなければ評価の対象としない。 ○実習目標に対する到達度 90点：⇒評価する到達目標①②③ ○学内演習・報告会 10点：⇒評価する到達目標①②③
関連科目	「精神看護学概論」「援助的人間関係論」「精神看護援助論」「精神看護技術論」
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	実践の現場から多くのことを学んでください。 学生と教員、実習指導者、および学生間の「報告・連絡・相談」を行い、連携をとりながら臨地実習に臨んでください。 健康管理に留意しながら実習に臨んでください。 本科目担当教員が従事した医療機関に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	在宅看護学臨地実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	90.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	3年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 高橋 奈美	看護
教育職員	菊地 ひろみ	看護

科目のねらい	在宅で生活している人とその家族の健康と生活に対する援助の実践を理解する。また、地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉の連携と専門職の役割および支援の実践を学ぶ。
到達目標	1) 対象者と家族を、健康および生活の両面から全体的に捉えられる。 2) 対象者の療養環境や生活環境および地域の特性に応じた、専門職の役割および援助の実践を理解できる。 3) 地域包括ケアシステムを構成する関係機関および専門職の連携、地域の資源について理解できる。
授業計画・内容（自由記述）	2週間の実習期間の中で、訪問看護ステーション（療養通所介護事業所を含む）において1週間、地域包括支援センターもしくは居宅介護支援事業所において1週間の実習を行う。 詳細は、「在宅看護学臨地実習要項」を参照のこと。 <実習施設> ・訪問看護ステーション19施設 ・地域包括支援センター11施設 ・居宅介護支援事業所15施設
事前・事後学習	在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護技術論の授業で配布した資料、在宅看護援助論で行った在宅看護過程の事例について復習すること。 在宅看護学臨地実習の実習要項において指定された自己学習を行った上で、実習に臨むこと。
教科書	『在宅看護学講座』 スーディ神崎和代他編、ナカニシヤ出版、2019 『在宅看護過程演習—アセスメント・統合・看護計画から実施・評価へ—』、上田泉編著、クオリティケア、2015
参考文献	在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護技術論で配布した資料、使用した文献
成績評価基準と方法	実習の取り組み状況、実習記録、実習カンファレンス、レポートにより実習目標の達成度を総合的に評価する。また、評価は、教員・実習インストラクターおよび実習指導者の評価から総合的に評価する。各々の週で2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としない。評価基準については、「在宅看護学臨地実習要項」の評価表の評価基準を参照のこと。
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護技術論など
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	在宅看護学は、各看護分野との関連が深く、応用的かつ実践的な分野です。既習した他分野における学びと、在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護技術論における専門科目における学びを統合し、広い視野を持って主体的に実習に臨み、在宅看護の実践から多くを学び取ることを期待しています。 本科目担当教員が従事した訪問看護ステーション、医療機関に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。



シラバス参照

講義名	公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	90.00
必修・選択区分	保健師コース必修		
学部等	看護学部		
開講年次	4年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 田中 里江	看護
教育職員	喜多 歳子	看護
教育職員	近藤 圭子	看護
教育職員	本田 光	看護

科目のねらい	公衆衛生看護の対象と方法を理解し、コミュニティで生活している人々との交流をとおして、多様な健康レベルにある個人や家族、集団を対象とした援助方法を理解する。また、事業所や学校などにおける活動のプロセスを学び、労働衛生管理等の側面や発達段階ごとの健康課題から多様な組織で行われる保健活動を理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象（個人・家族、集団）が健康課題を解決・改善し、セルフケア能力を高める支援方法について理解する。 2. 集団・組織・地域の人々の生活や健康課題の解決に向けて行われる保健活動の実際を学ぶ。 3. 多様な組織で行われる保健活動について理解し、地域保健全体における組織間の協働と連携について考察する。 4. 学生として地域社会や組織の秩序を理解し、主体的・積極的に学習する
授業計画・内容（自由記述）	<p>別途配布する「公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ実習要項」に基づいて、下記のスケジュール・実習施設で実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スケジュール <ul style="list-style-type: none"> ・学内オリエンテーション1（実習全体）：5月上～中旬予定 ・学校保健実習担当者との顔合わせ：5月上～中旬予定 ・札幌市保健所総合オリエンテーション：5月中旬予定 ・学内オリエンテーション2（実習施設別）：5月下旬予定 ・臨地実習 2020年6月15日（月）～7月31日（金）うち2週間 2. 実習施設 <ol style="list-style-type: none"> 1）行政実習：札幌市保健所、札幌市各区役所・保健センター 渡島保健所、鹿部町、松前町 2）産業保健・労働衛生行政実習：事業所、労働衛生機関、北海道産業保健総合支援センター 3）学校保健実習：札幌市立小学校、中学校 <p>実習は、学生1人につき、行政機関（保健所と保健センターと区役所、または保健所と市町）、事業所等組織（北海道産業保健総合支援センターおよび、事業所等または労働衛生機関）、教育機関（小学校または中学校）の計3領域とする。</p>
事前・事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習 公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ実習要項を参照。 2. 事後学習 実習最終日には臨地での実習で得た学びを考察し、実習全体のまとめを行う。グループワーク、発表準備など時間外の作業が必要となる。
教科書	なし
参考文献	関連科目で使用した教科書や資料
成績評価基準と方法	<p>実習への参加状況、記録・レポートの内容から、目標1)～4)の達成度を評価する。</p> <p>○記録70%：記録・グループワーク・プレゼンを総合して評価する。</p>

	<p>⇒評価する到達目標 目標１）～４）</p> <p>○レポート 20%：個人レポートの内容、様式から評価する。</p> <p>⇒評価する到達目標 目標１）～３）</p> <p>○カンファレンス 10%：カンファレンスの参加と貢献、質問や話題提供を率先して行うことを評価する。</p> <p>⇒評価する到達目標 目標１）～４）</p> <p>○出席：（欠格条件）2／3以上の出席</p>
関連科目	<p>公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護援助論ⅠⅡ、健康教育指導法、公衆衛生看護技術論、ヘルスプロモーション活動論、保健医療福祉行政論ⅠⅡ・保健統計・疫学ⅠⅡ、公衆衛生学</p>
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	<p>関連科目のすべてを統合した実習です。これまで履修した科目の内容を復習し、知識・技術ともに十分な準備をして臨んでください。個人や実習グループメンバーとともに実習での学びを深化させ、疑問を自ら解決する姿勢が求められます。体調管理に留意し、実習場面で積極的に思考・行動できる状態に整えましょう。</p> <p>本科目担当教員が従事した保健師・看護師に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	公衆衛生看護学臨地実習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	3	時間	135.00
必修・選択区分	保健師コース必修		
学部等	看護学部		
開講年次	4年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 本田 光	看護
教育職員	田仲 里江	看護
教育職員	喜多 歳子	看護
教育職員	近藤 圭子	看護

科目のねらい	地域における保健師活動の実際を体験し、住民の健康を支援する具体的な保健師活動の展開方法を学ぶとともに、関係機関や他職種との協働・連携の意義を理解する。また、地域における健康課題を理解し、公衆衛生看護における管理と評価、社会資源の開発、健康危機管理などコミュニティ全体への支援について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 住民のセルフケア能力を高める支援方法や主体的活動を支えるための援助について理解する。 2. 地域の人々の生活や健康課題の解決に向けて行われる保健活動について理解する。 3. 地域の健康課題を明確にするために地域アセスメントを実施することができる。 4. 地域の健康水準を高めるための保健事業や社会資源の開発・システム化・施策化を進める保健師の役割を理解する。 5. 健康危機管理体制を整え、発生時や発生後の保健活動と保健師の役割について理解する。 6. 学生として地域社会や組織の秩序を理解し、主体的・積極的に学習する。
授業計画・内容（自由記述）	<p>〈スケジュール概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所・市町村の実習を併せて3週間とする。 ・学内オリエンテーション1（実習全体）：5月上旬～中旬予定 ・保健所実習（総合オリエンテーション）：5月中旬予定 ・学内オリエンテーション2（実習施設別）：5月下旬予定 ※学内オリエンテーション、保健所実習は公衆衛生看護学臨地実習Ⅰと共通 <p>〈実習期間〉6月初旬～7月下旬のうち実習要項で定める臨地3週間</p> <p>〈実習施設〉札幌市保健所、札幌市各区保健センター、札幌市各区役所 北海道渡島保健所、鹿部町、松前町</p> <p>* 詳細は、別途配布する「公衆衛生看護学臨地実習要項」を参照すること。</p>
事前・事後学習	演習要項に記載していますので、事前によく読んで事前・事後学習を行ってください。
教科書	保健師コースで使用したものを活用するため、新規購入の必要はありません。
参考文献	関連する授業科目で使用した文献や資料、実習施設より配布された行政資料。
成績評価基準と方法	<p>実習への参加状況、記録・レポートの内容・カンファレンスから、目標1～6の到達度を評価する。</p> <p>○実習記録54%：記録・レポート・カンファレンスの評価を総合して、到達度を判断する。 ⇒評価する到達目標 目標1～5</p> <p>○最終レポート 20%：記録・レポート・カンファレンスの評価を総合して、到達度を判断する。 ⇒評価する到達目標 目標1～5</p> <p>○カンファレンス 10%：記録・レポート・カンファレンスの評価を総合して、到達度を判断する。 ⇒評価する到達目標 目標1～5</p>

	<p>○参加状況 16%：グループ作業への貢献、積極的・主体的な行動調整、指導を受けて修正し、学びを深める学修態度を評価する。 ⇒評価する到達目標 目標6</p> <p>○出席（欠格条件）：2/3以上の出席</p>
関連科目	<p>公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱ、健康教育指導法、公衆衛生看護技術論、ヘルスプロモーション活動論、保健医療福祉行政論Ⅰ、疫学Ⅰ、保健統計、公衆衛生学</p> <p>4年後期科目：保健医療福祉行政論Ⅱ、疫学Ⅱ、公衆衛生看護管理論</p>
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	<p>関連科目のすべてを統合した実習です。これまで履修した科目の内容を復習し、知識・技術ともに十分な準備をして臨んでください。また4年生の実習として自らが学習するための環境調整、教員や実習指導者との日程調整や指導を受けるための事前の準備など主体的な行動調整が求められます。自分の学修のための実習を自分でつくっていくという姿勢で臨むことが期待されています。</p> <p>自身の体調管理にも十分に留意してください。</p> <p>なお、本科目は担当教員が従事した保健師または看護師に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ヘルスケアマネジメント実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	3	時間	135.00
必修・選択区分	必修		
学部等	看護学部		
開講年次	4年次		
科目分類	専門教育科目 専門		

担当教員

職種	氏名	所属
教育職員	◎ 矢野 祐美子	看護
教育職員	工藤 京子	看護
教育職員	神島 滋子	看護
教育職員	大野 夏代	看護
教育職員	守村 洋	看護
教育職員	藤井 瑞恵	看護
教育職員	菅原 美樹	看護
教育職員	村松 真澄	看護
教育職員	原井 美佳	看護
教育職員	佐藤 ひとみ	看護
教育職員	檜山 明子	看護
教育職員	伊東 健太郎	看護
教育職員	鬼塚 美玲	看護
教育職員	高橋 奈美	看護
教育職員	武富 貴久子	看護

科目のねらい	ヘルスケアマネジメント実習では、病院等において組織的に看護ケアを提供するためのシステム構築、運営やマネジメント機能について、実践的組織活動を通して学ぶ。具体的には、学生自身が関心のある施設において、これまでの授業で学んできた知識・技術を、実践を通して確認することにより、理論と実践を結び付ける。
到達目標	①チームの一員として役割を担う。 ②ケア実現のためのマネジメント能力を養う。 ③危機発生時の対処方法を理解し、リスクマネジメントができる。 ④看護師の倫理綱領を遵守し、保健医療専門職として責任ある行動を取る。 ⑤既習の知識と技術の統合・活用を通して自己の課題を明確にする。
授業計画・内容（自由記述）	実習施設：市立札幌病院、手稲溪仁会病院、KKR札幌医療センター、札幌厚生病院、JR札幌病院、天使病院、旭山病院、札幌西円山病院、高齢者総合福祉施設サン・グレイス 実習内容：2020年度ヘルスケアマネジメント実習 実習要項参照
教科書	指定なし
参考文献	上泉和子：看護の統合と実践〈1〉看護管理（系統看護学講座 統合分野）、医学書院
成績評価基準と方法	看護実践、実習記録、レポート、発表の内容から実習目標の到達度を評価し、実習態度と合わせて総合的に評価する ○目標到達度70%：看護実践・実習記録 ⇒評価する到達目標①②③④⑤

	<p>○レポート10% : 実習の振り返り、4年間の学習の統合 ⇒評価する到達目標①②③④⑤</p> <p>○発表・グループワーク10% : 実習のまとめ、他者との意見交換による学びの深化 ⇒評価する到達目標①②③④⑤</p> <p>○実習態度10% : 積極的な取り組み、態度 ⇒評価する到達目標①②③④⑤</p> <p>○出席：2/3未満の出席で欠格</p>
関連科目	看護学原論、看護理論、看護管理学、チーム医療論、医療安全管理論、感染管理論、4年間の講義・演習・実習
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	<p>大学看護教育の集大成として、既習の知識・理論・技術を発展・統合させるための実践を中心とした実習です。これまでに培った自己の能力を活用し積極的に実習に臨んでください。この実習によって、自分なりの看護観を形成するとともに、今後の自己課題を明確化できることを期待します。</p> <p>本科目担当教員が従事した保健・医療機関に関する実務経験に基づき、上記のとおり授業を行います。</p>

[ウインドウを閉じる](#)

役員名簿（２０２０年度）

【公立大学法人札幌市立大学役員】

区 分	職 名	氏 名	備 考
理事長	理事長	中島 秀之	学長
理 事	理事（常勤）	松浦 和代	副学長
		小野 聡	事務局長
	理事（非常勤）	恩村 裕之	北電興業株式会社取締役社長
		石垣 靖子	北海道医療大学名誉教授
		大友 裕之	公益財団法人札幌市芸術文化財団 副理事長
監 事	監事（非常勤）	橋場 弘之	田村・橋場法律事務所（札幌市任命）
		谷口 雅子	谷口雅子公認会計士事務所（札幌市任命）

確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

大学名 札幌市立大学

学部	デザイン学部
	看護学部
専攻科	助産学専攻科
大学院	デザイン研究科 博士前期課程
	看護学研究科 博士前期課程
	デザイン研究科 博士後期課程
	看護学研究科 博士後期課程